天気 1983年8月
Vol. 30, No. 8
103 : 302 : 5012 : 03（気象と海氷）

昭和57年度秋季大会シンポジウム「気象と海氷」の報告

まえがき

菊地勝弘（司会）

今回の秋季大会のシンポジウムのテーマは「気象と海氷」にしました．これまでの秋季大会のテーマは，その地域に特徴的な現象を扱ったものが取り上げられてきており，従って，北海道が直面する気象現象はというと，1981年８月のような大雨洪水もありますが，やはり日本海側の局地的大雪，太平洋岸の海霧であり，そしてオホーツク海の流氷ということになります．このように北海道の気象現象は，太平洋，日本海，オホーツク海と，それぞれの海に関係していることがわかります。このうちの，日本海側の大雪は，既に取り上げたこともあり，また1981年の名古屋の大会でも「北陸豪雪」として話題になったばかりです．一方，海霧については，科学技術庁が1980年から今年にかけて３年計画で科学技術庁防災科学技術センター，気象研究所，北海道開発局が参加して北海道東部太平洋岸の釧路地方で大がかりな観測を実施し，目下解析が行われているところであります．

このようないきさつから，今回はこれまであまり話題にならなかった海氷を取り上げ，気象とのかかわりについて話していただくことにしました．最近気候変動が大きく取り上げられ，また北極海の海氷の気候に及ぼす影響も数値計算に組み入れられるようになり，海氷も新しい見方がされるようになってきたということから，時機を得た話題かと思われます．

1. オホーツク海の海氷分布とその変化

赤川正臣*

1. はじめに

地球上，海氷の見られる地域は，南極大陸周辺海域および北極海とその周辺海域が主要なものである．アジアではベーリング海，オホーツク海，北海道沿海，日本海北部，渤海周辺，北米地域ではグリーンランド沿海，バッフィン湾，ラブラドル海，ハドソン湾，セントローレンス湾，ヨーロッパではバルト海，フィンランド湾，ボスニア海湾などである．これらの海氷面積は，最盛期には約４千万平方 km と推算され，これは全地球表面の８％，全海面の11％に相当する．

* Masaomi Akagawa, 気象研究所.